

トピックス

- ・令和7年度第1回定時社員総会
- ・総合研修会
- ・委員会活動紹介
- ・新入会員の紹介
- ・災害に備えた支え合いの地域づくりの取り組み
- ・私のお気に入り
- ・ペンリレー

令和7年度 第1回定時社員総会

令和7年5月24日（土）中央シルバーエリアにて、第1回社員総会、総合研修会が開催されました。和田会長からは来年度、日本社会福祉士会全国大会が青森で開催されることや、会報かぜが5月発行号からメーリングリスト登録会員へは発送がなくなりデータ化したこと等改めてお話をありました。出席者は41名でした。

議案・報告事項は以下の通りです。

◇第1号議案 令和6年度決算報告について

佐々木尚敏監事より、適正に表示されている旨の監査報告がありました。郵送料値上げに伴い会員の皆さんにはメール配信への協力を頂きたいこと、また予算と決算を比較して見られる形の決算書作成について、監事会で提案した旨の報告がありました。議案は、原案どおり承認可決されました。

◇第1号報告 令和6年度事業報告について

令和6年3月31日現在の会員数は401名。年度内入会33名、退会は20名。

令和7年3月31日現在の会員数は414名。令和7年5月24日現在の会員数は425名。

ばあとなあ秋田、生涯研修委員会、外部評価委員会より事業報告の補足説明がありました。

◇理事会報告

委員会委員の選任、役員（理事）辞任について報告がありました。

総会の様子



総合研修会

今年度は、「社会福祉士の自己研鑽について、いま一度考えてみよう!」というテーマで開催されました。はじめに、生涯研修委員会羽川毅郎氏、伊藤政利氏、佐藤舞子氏から、基礎研修、スーパービジョンの実施状況についての報告、認定社会福祉士の取得方法やe-ラーニングについての説明がありました。

昨年度までに基礎研修を修了した会員は、157名で、会員全体の3割強になります。スーパービジョンは昨年度までの実施者が延べ30名で、認定社会福祉士は6名です。なお、認定社会福祉士の取得ルートは現在7種類あり、来年度1つルートが増えます。多くの会員がこういった研修制度を利用して、自己研鑽を深めています。

また、令和4年4月～e-ラーニング講座のコンテンツを無料で視聴できるようになりました。自由に何度も視聴できますので、気軽な自己研鑽の機会としてぜひご活用ください。

詳細は、日本社会福祉士会のホームページから、『生涯研修手帳』の2025年最新版をダウンロードし、ぜひご確認ください。(記:広報委員会 泉 真紀子)



生涯研修制度とは 生涯研修センターとは 生涯研修制度の成立と共通基盤の意義 生涯研修制度管理システム

お問い合わせ よくある質問

会員登録へ 生涯研修手帳

生涯研修手帳

生涯研修手帳は、ご入会時に皆さまへ送付しています。
2025年度版にご希望の方は、下記メールアドレスまで「生涯研修手帳・購入希望」とタイトルをつけて、会員登録名、氏名、希望冊数、数量をご連絡ください。
＊例）社会福祉士生涯研修手帳ダウンロード（2025年度版）（2650円）

● 生涯研修手帳の再発行について
冊子での発送をご希望の方は、下記メールアドレスまで「生涯研修手帳・購入希望」とタイトルをつけて、会員登録名、氏名、希望冊数、数量をご連絡ください。
メールアドレス：
info@jswcs.or.jp
郵便番号、購入額、税込額、支払方法のご連絡を希望いたします。

生涯研修手帳 外部評価制度 管理システム

委員会活動紹介

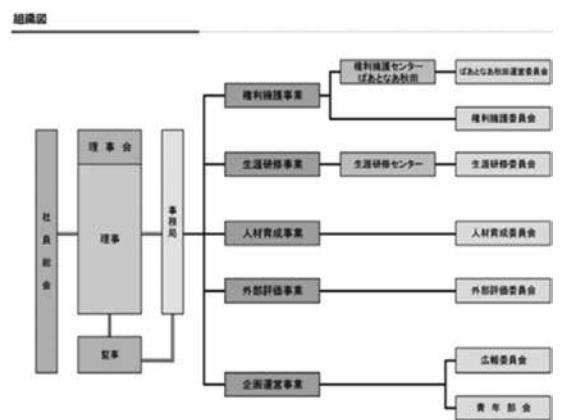
秋田県社会福祉士会は、組織図の通りに構成されており、複数の委員会があります。今回は、「外部評価委員会」の活動と「生涯研修委員会」の新入会員オリエンテーションの活動を紹介します。

外部評価委員会の活動

委員は22名と比較的規模の大きいメンバー構成となっています。実施している事業は、「地域密着型サービス外部評価事業(以下「地域密着型外部評価」)」と「施設サービス等利用者処遇指導事業所評価(以下「処遇指導事業」)」の二つです。「地域密着型外部評価」と「処遇指導事業」のどちらも、調査員が二名一組で事業所を訪問し、現地にて職員と施設見学やインタビュー調査などを行います。外部評価事業によって、調査対象となる事業所のサービスを利用する方々の権利を擁護することができます。調査を受けた事業所にとっては、事業の信頼度が向上することにもつながります。また、調査対象となった組織のアセスメントを行い、そこで明らかとなる課題を共有しながら調査報告書をまとめるという一連の

委員長 伊藤政利

プロセスを通じ、組織運営管理の視点が養われ、同行した調査員とともにソーシャルワーカーとしてのスキルアップを図ることにつながることも実感しています。



新入会員オリエンテーション

5月24日に、新入会員のオリエンテーションを行いました。2年目となったこの活動は、今年は4名の方が参加してくれました。スタッフ3名と7名で車座となり、和気あいあいとした雰囲気で行いました。

内容としては、社会福祉士となった動機、秋田県社会福祉士会の事業と組織の概要、基礎研修や青年部会「わっか」の活動紹介、ソーシャルワーカーとして考えていることなどを中心に話し合いました。

参加者のお一人であった高橋玲奈さんから「オリエンテーションでは、皆様気さくで温かい雰囲気があり、悩みを真摯に聞いてくださったりと、組織や事業というよりも福祉を考える人たちの『仲間』になれたように感じました。また、今後の基礎研修を

生涯研修委員会 伊藤政利

共にする方にお会いことができ、参加した価値があったと思いました。少人数だったこともあり、話しやすく、ありがたい会でした。」とコメントをいただきました。



新入会員の紹介

新たに会員になった仲間をご紹介します！

三浦みづき

昨年から秋田県社会福祉士会に入会させていただき、社会福祉法人いづみ会ケアハウススプリングビルで生活相談員として勤務しています。

社会福祉士の資格取得後、他の職業で働いていましたが、高齢者福祉の仕事をしてみたいと考え現在の施設で働き始めました。まだまだ分からぬことも多く勉強の毎日ですが、挑戦してみたいと思った仕事に取り組めていることにやりがいを感じています。

社会福祉士会への入会のきっかけは、施設長からの紹介でした。活動内容を聞き、研修などを通して様々なことを学び、多くの方との繋がりをつくりたいと考え入会しました。入会後は、いくつかの研修に参加させていただいている。普段は高齢者福祉が中心の業務ですが、研修では他分野で活躍されている方々の貴重な実践経験や福祉の視点に触ることができ、幅広い福祉の分野の学びを得て自身の視野を広げることができます。

また、研修では会員の方々との交流の機会もいたいでいます。研修で知り合った方と後日業務で関わることがあり、円滑に連携がとれてスムーズな支援につながった経験から福祉のネットワークの大切さを実感しました。同年代の方とも知り合うことが

でき、気軽に相談できる仲間の存在は安心感やモチベーションの向上につながっています。社会福祉士会に入会してからは、業務以外でも福祉に携わる方や福祉の情報に関わる機会が多くなり、社会福祉士としての自覚や「自分自身が社会資源である」という意識を強く持つようになりました。自身の知識や経験、ネットワークの広さが支援の幅を広げ、対象者に適したより良い支援につながるのだと思います。

今後も社会福祉士会の活動に積極的に参加し、私自身が有益な社会資源となって誰からも信頼される社会福祉士になれるよう自己研鑽に努めていきたいです。

引き続きご指導よろしくお願ひいたします。



災害に備えた支え合いの地域づくりの取り組み

市 村 めぐみ

災害対策基本法により、災害時避難行動要支援者の個別避難計画の作成が市町村の努力義務とされています。今回は防災・支え合いマップづくりをいかしながら、地域主体で個別避難計画の作成に取り組む大館市の事例を紹介します。

地域ではどんな災害が想定できるか、日中地域にどんな人がいるかなど、地域の特徴に合わせた備えが必要となります。私は生活支援コーディネーターとして活動しており、支え合い体制づくりの一環として、町内会等地域が主体となって作成する『防災・支え合いマップ』や、災害が発生したとき、災害のおそれがあるときに、自力で避難することが困難な高齢者や障がいのある人(避難行動要支援者)の『個別避難計画』の作成を支援しています。

『防災・支え合いマップづくり』は、災害時の避難支援体制づくりを目的とし、社会福祉協議会が実施する事業と連携し、町内会館等で関係者を集めて話し合いを行うものです(町内会役員、自主防災関係者、民生児童委員、福祉員、市の担当者、地域包括支援センター、社会福祉協議会、生活支援コーディネーターなどが参加)

進め方としては、まず市の防災マップや過去の災害などの情報を参加者同士で確認し合いながら、水害・土砂災害の区域、避難所などをマークします。

次に、避難行動要支援者名簿や社会福祉協議会が管理する救急医療情報キット設置者の情報を参考にしながら要支援者宅を確認してシールを貼り、近隣の支援できる方にも違う色のシールを貼ることで、住民同士でどのような避難支援ができるか検討します。8月には私が担当する上川沿地区の防災講習会において、公民館を会場に9つの町内に分かれ、マッ

プづくりを行いました。

『個別避難計画』は、事前に要支援者本人から作成および外部へ提供について承諾を得たうえで、防災・支え合いマップを参考に、避難ルートや誰がどのように避難支援するか、関係者や支援者を集めて話し合いながら作成します。地域主体の個別避難計画作成が少しずつ進んできており、こうした取り組みを通じて、災害時だけでなく、日頃から声をかけ合う関係性がより強化され、支え合いの地域づくりにつながっていると感じます。

今後も先進事例なども参考に支え合いの推進、地域の災害への備えに協力していきたいと思います。



ソーシャルワーカー応援企画 応募要項

社会福祉士会広報委員会では、ソーシャルワーカーの活動を応援する目的で会員の方からの寄稿を募集いたします。まだ、広く知られていない活動を紹介したい、社会課題解決のためにソーシャルワーカーが企画し、取り組んでいる活動の紹介をしたいなど、寄稿を希望される方は、秋田県社会福祉士会事務局 (akitaken-csw@flute.ocn.ne.jp) まで氏名、所属、職名、会員番号、電話番号、投稿内容の概略を記入し、お送りください。広報委員会から後日、投稿依頼をさせて頂きます。

私のお気に入り

☆藤井陽香さん

千本鳥居と聞くと、有名なのは京都にある伏見稻荷神社です。実は、東北にも千本鳥居のある神社があるのはご存知でしょうか。

先日、家族で青森県へ出かけた際に、参拝してきました。そこは、青森県つがる市にある高山稻荷神社です。天気に恵まれ、ゆるやかな上り坂となっている朱い鳥居をぐんぐん進んでいくと、たどり着いた先には、絶景が待っていました。異世界にでもたどり着いたかのようなとても素晴らしい景色でした。空気が澄んでいて、心が洗われたようでとても気持ちがよかったです。

新年度から職場の異動や子どものスポ少への加入など、バタバタ、ざわざわする日々の中、家では母ではなく、鬼となっていましたが、ようやく人間の心を取り戻しました。みなさんも機会がありましたら、ぜひ訪れてみてください。おすすめです。



☆伊藤章吾さん

私のおすすめスポットは、横手市平鹿町にある「浅舞公園」です。妻の実家が近くにあり、帰省した際には毎朝のように子供と公園まで散歩に出かけることが日課となっています。公園の中には様々な遊具や庭園、池などが設けられており、とても居心地がよく、親子で楽しむことができます。浅舞公園には約60万本のアヤメ（ハナショウブ）が植えられ、「あやめ園」とも呼ばれています。さらに毎年6月には「あやめまつり」が開催され、満開のハナショウブを間近で鑑賞することができ、公園内の景色はとても綺麗です。お祭り期間中の土日には様々なイベントが行われるほか、屋台やテント村も出店され、県

今回は会員のみなさんのお気に入りの場所についてお聞きしました

内外から多くの観光客が訪れます。私自身も今年のあやめ祭りに家族で出かけ、楽しい思い出を作ることができました。浅舞公園は四季折々の自然を楽しむことができるおすすめスポットです。皆様も近くを訪れた際にはぜひ立ち寄ってみてください。



☆松本慶一さん

私がお勧めするスポットは、元滝伏流水（にかほ市）です。何といっても、“自然×フォトジェニック”を求める方々には、とっておきの場所になります。苔むした岩と真っ白な水しぶきのコントラストが、幻想的で、特に夏にはミストが立ち込めて「もののけ姫みたい…！」と、感じる方もいると思います。四季折々の表情も魅力で、秋の紅葉シーズンは紅と緑、水滴が織りなす絶景に心トキめくこと間違いないし。

アクセスの良さもバツチリです！近くの食堂でおいしいラーメンもどうぞ！



ペンリレー

「私の半世紀、行き着いた先は自然農」

にかほ市社会福祉協議会（にかほ市役所福祉課に出向中）

吉 泉 真理子

基礎研修と一緒に受講し、また同じ本荘由利地区で仕事でもお世話になっております由利本荘市居宅介護支援センター「さくら」の齋藤博隆さんよりバトンを受け取りました吉泉真理子と申します。

私はにかほ市社協の職員として、昨年の4月からにかほ市役所福祉課に出向し、成年後見と重層的支援体制整備事業を担当しております。定年までの年月を片手で数えられる年齢になりましたが、私が福祉の業界に入ったのは平成20年で、まだ20年足らずです。それまでは製造業で働いていました。

皆さん「電解水」を知っていますか？塩水えんすいを電気分解して作られる殺菌効果のある水のことです、その特許を持っていた地元の会社で、電解水生成装置を売る仕事をしていました。主に厨房向けで、



(写真は、高台にある我が家のかまくらから望む鳥海山)

県内ほとんどの介護施設や障害者施設、総合病院、保育園を回りました。

そこでお会いした方と話をしているうちに装置を売ることよりも福祉業界の方に興味が湧き「私もそっちに行きたい！」と強く思うようになりました。そんな時たまたま新設のショートステイで生活相談員を募集していると言う話が耳に入り、思い切って転職したのでした。転職してから介護福祉士（通信で受験資格が取れるぎりぎり最後の年でした！）、介護支援専門員、そして社会福祉士と資格を取ることができ、その後社協に入職しました。基礎研修と成年後見人材育成研修・登録研修も終了し、めざしていた研修は一段落しました。今は休日に自然農で野菜作りを楽しんでいます。耕さない、肥料もやらない、自然の力を利用する農法です。自然農の野菜作りと、福祉の対人援助はなんとなく似ているものを感じます。その人、そのものをありのまま受け止めて生かすというのでしょうか・・・。次は基礎研修と一緒に受講し、SNS等で近況を報告しあっておりまます、秋田県地域生活定着支援センターで相談員をされている本間好子さんにバトンを渡します。本間さん宜しくお願ひします。



今年の夏は記録的な猛暑でしたね。家庭菜園を楽しんでいるのですが、今年は水をやっても直ぐに無くなってしまい、枯れてしまうのが多かったです。少し外に出ると室内との温度差で具合が悪くなりそ

うでした。皆様は大丈夫だったでしょうか？

季節も変わり感染症も増えてきました。皆様体調に注意してお過ごしください。

＜発行＞一般社団法人 秋田県社会福祉士会 ＜発行責任者＞和田士郎
＜事務局＞秋田市旭北栄町1-5（秋田県社会福祉会館内）
＜TEL＞018-896-7881 ＜FAX＞018-896-7882
＜MAIL＞akitaken-csw@flute.ocn.ne.jp ＜URL＞http://www.akita-csw.org/
編集広報委員会